

平成 16 年度試験検査精度管理実施結果

水質化学科

「理化学試験精度管理」事業は、昭和 62 年度から継続して実施しており、5 中央保健所及び衛生環境研究所の 6 機関で実施した。

本事業の目的は、中央保健所及び衛生環境研究所で実施している試験検査の信頼性を確保するとともに、分析

及び検査技術の向上を図ることにある。平成 17 年 1 月下旬に衛生環境研究所が 4 種類の模擬試料を調製して各機関に配付し、それぞれ指示した方法により調製後分析を実施した。

分析項目は、フッ素及びその化合物、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の 2 項目であるが濃度が異なっている。

分析方法及び分析結果について検討したところ、フッ素及びその化合物、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素とも良好な結果であった。

平成 16 年度 理化学試験精度管理実施結果

機 関 名	分 析 結 果			
	試料水（フッ素及びその化合物）		試料水（硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素）	
	No 1	No 2	No 1	No 2
A	0.1544	0.5718	1.326	6.732
B	0.1545	0.5749	1.367	6.740
C	0.1562	0.5914	1.417	7.007
D	0.1588	0.6011	1.382	6.935
E	0.1522	0.5790	1.380	6.847
F	0.1570	0.5686	1.350	6.811
平 均 値	0.1555	0.5811	1.370	6.845
標 準 偏 差	0.0024	0.0122	0.031	0.110
変 動 係 数 (%)	1.6	2.1	1.1	1.6

単位：試料水は mg / l

平成 16 年度松くい虫防除薬剤空中散布に伴う影響調査について（県行政検査）

理化学試験室

平成 16 年度における松くい虫防除薬剤空中散布事業は、薬剤としてフェニトロチオン（以下 ME P）を使用し、前期（6 月 1 日～ 4 日）、後期（6 月 21 日～ 23 日）の 2 回実施された。

そこで当所は、環境調査として北条市、伊予市、久万町及び美川村における水源となる河川水、北条市及び伊予市における大気中の浮遊量と落下量について分析を担当した。

薬剤の捕集法として、大気中の薬剤浮遊量は、固体吸収体としてグリセリンをコーティングしたフロリジルを、落下量は、グリセリンをコーティングした風乾ろ紙を使用した。

調査結果は、次のとおりであった。

1 河川水の薬剤濃度

北条市（2 地点）、伊予市（3 地点）、久万町（2 地点）

及び美川村（1 地点）の 8 地点から前後期の散布前後における河川水 33 検体（再検査を含む）を分析した。分析及び再調査の結果は、前期の散布後 1 検体、後期の散布後 1 検体から使用薬剤 ME P が検出された。

（検出限界：0.20 μ g / l）

2 大気中の浮遊量

北条市、伊予市の 2 地点において前期、後期の散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した 28 検体の分析結果は、後期の当日 1 検体から使用薬剤 ME P が検出された。

（検出限界：絶対量 0.1 μ g）

3 落下量

北条市（3 地点）、伊予市（3 地点）の 6 地点において前期、後期の散布前日、当日、2 日後、7 日後の 4 回散布薬剤を捕集し、経時変化について調査した 48 検体の分析結果は、前期の当日 3 検体、2 日後 3 検体、後期の当日 4 検体から使用薬剤 ME P が検出された。

（検出限界：総落下量 2.0 μ g / m²）